

ござれ祭り～キリコと灯りの祭典～

地元の味覚とステージを堪能

町内のキリコが一堂に会し、たくさんの食を楽しめるイベント「ござれ祭り」が8月17日(土)に柳田植物公園で行われました。

「五感まるごと市」では地元の人による手作りのテナントが並び、訪れた人たちは、能登杜氏の日本酒や地ビールを楽しむとともに、ブルーベリーをはじめ、能登牛・イカなどの地元の食材に舌鼓を打ちました。今回は、姉妹都市である宮崎県小林市からも肥後市長をはじめ職員が参加。宮崎牛のステーキや、ブドウ、梨などの特産品を販売しはじめると、たくさんの人が買い求めていました。



小林市の「こそも〜」(右)も登場



ステージでは、町内外の団体が伝統芸能を披露しました。日が傾いた頃、歌手の石原詢子さんがしっとり歌いあげると、会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

最後に花火がキリコの真上にあがると、訪れた人たちは歓声をあげて楽しんでいました。

「いきもの一斉観察会」実施 生物多様性への理解を深める



8月3日(土)、不動寺みどりの少年団員8人は、九里川尻川支流の平瀬川で水生生物の調査を行いました。世界農業遺産「能登の里山里海」認定地域の4市5町からなる「能登地域 GIAHS 推進協議会」が行う事業の一環です。

長年、県内河川の生物調査を行い専門知識を持つ谷口正成さん(当日)が講師をつとめ、山口みどりの里保存会の会員7人が子どもたちの補助にあたりました。

団員らは川に入り、大きな石を大人に動かしてもらって、石の裏や川底に住む生物を網で捕獲しました。川幅を測ったり、水温を調べたりするなど、生息環境も記録しました。

川から上がって、捕獲した生物の仕分けと生息数調査を行いました。平たい容器に網の中の生物を入れ、ピンセットなどで種類ごとに仕分けします。

カゲロウやトビケラ、トンボの幼生などとともに、4月に団員が放流したヤマメの稚魚も確認することができました。

谷口さんは「予想以上に生物が多く、平瀬川は動物に恵まれたところ。生物が生きやすい環境を守りながら、自然の姿をもっと勉強してほしい」と団員らに呼びかけました。



講評を述べる谷口さん(右)

2013 夏 能登の自然体験学習ツアー

7年前から始まった流山市児童参加の「能登の自然体験ツアー」。今年は7月29日～8月1日にかけて、のと海洋ふれあいセンターを中心に実施。与えられたミッションをクリアしながら、能登の自然を体感しました。



MISSION 1 7/30(火) 知識は宝なり 「九十九湾の自然を知れ！」

今年の参加者は流山市の児童9人と能登町の児童22人。5チームに分かれて、宿泊先の能登勤労者プラザを出発。海の上の遊歩道を散策しながら「のと海洋ふれあいセンター」へ。観光船に乗船し、いけすでの餌付けに挑戦。透き通った海に歓声があがりました。



午後からは、いよいよミッション(指令)発表。能登の自然や暮らしを学びながら暗号書を探し、課題をクリアするごとにポイントが与えられます。



夕方には、小木中学校の相撲場で相撲練習に合流。まわしを締めてもらい、四股やすり足などの基礎的な練習から開始。地元の子に胸を借りて、ぶつかり合いも体験しました。



MISSION 2 7/31(水) 「九十九湾の海を食らえ！」

MISSION 2日目。能登の食材探しがこの日の指令。はじめに行われたのは、海水を煮詰めての塩づくり。海水6ℓを鍋にくみ、たき火にかけ蒸発させます。



能登の児童は「しただめ」などの貝類を採取したり、農家からスイカをもらったり、海に山にとび回りました。流山の児童はシュノーケリングを体験。海の生物を観察しました。



つり上げた20匹の魚とともに、バーベキューで能登の食材を堪能することができました。夜はアカテガニを観察。午後9時ごろまでみんなで楽しく過ごしました。



能登の子との今年の交流はこの日で終わり。来年の再会を約束しました。

